

東京のまちづくり

特集1

・連続立体交差事業推進中

特集2

・企画展「小笠原諸島展」

特別特集

・小石川後楽園～梅香る庭園へ～



No.195 (1・2月号) は、令和6年11月30日時点の情報に基づき作成しています。

連続立体交差事業 推進中

連続立体交差事業とは???

道路整備の一環として、鉄道を一定区間高架化又は地下化し、多数の踏切の除却と交差する道路との立体化を一挙に実現する都市計画事業です。

都内には、約1,040箇所の踏切が存在
そのうち約290箇所が「開かずの踏切」



「開かずの踏切」に誰もがイライラ!

解消!



バスや救急車も遮断する渡れない踏切!

渋滞解消で人とモノの流れがスムーズに

地域分断解消により賑わいのあるまちに

ストック効果

事業を契機に再開発等が進展



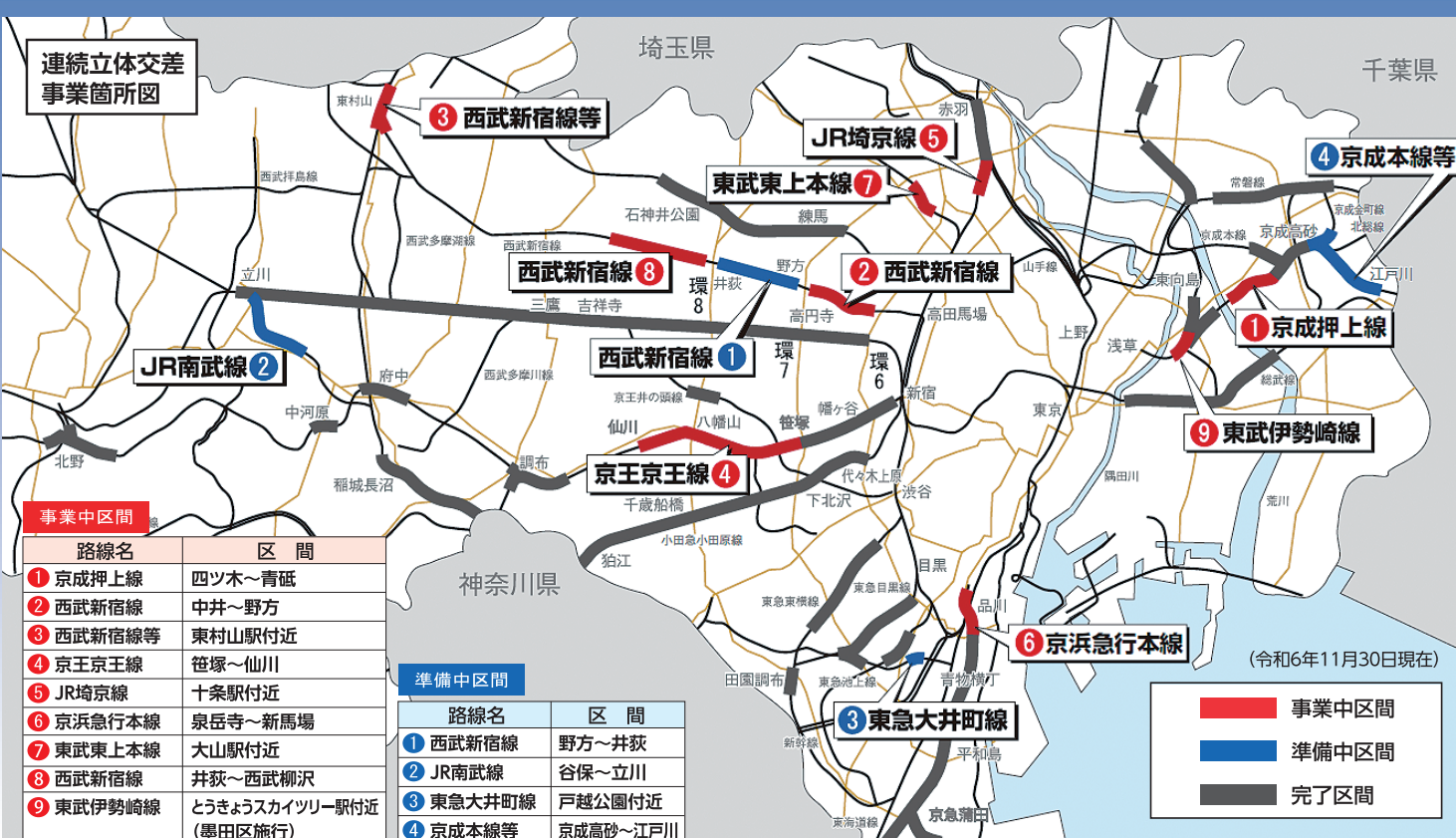
明治通り(京成曳舟駅東側)

踏切による交通渋滞が解消

高架下には公共施設や保育所、商業施設などを整備し、便利なまちに



JR中央線(武蔵小金井駅)



～踏切がなくなる、渋滞がなくなる、まちが変わる～

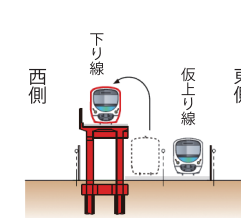
西武鉄道新宿線、国分寺線及び西武園線(東村山駅付近) 連続立体交差事業

事業概要

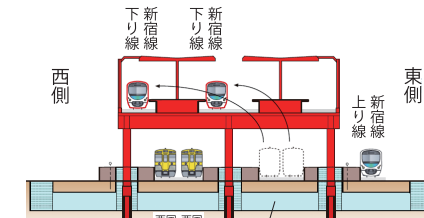
本事業は、東村山駅付近の約4.5kmの区間において、道路と鉄道を連続的に立体交差化することにより、府中街道など5箇所の踏切を除却し、併せて側道を整備するものです。



位置図



駅間部(新宿線)



東村山駅部

現地の様子



東村山駅の高架橋上



東村山駅西口

問合せ先

道路建設部 鉄道関連事業課
TEL: 03-5320-5331東京都建設局
連続立体交差事業ポータルサイト
<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/road/kensetsu/renritsu/portal>

イキモノのイキな話 145



企画展「『水辺の自然』の生き物」を開始しました

葛西臨海水族園 飼育展示係 遠藤周太

葛西臨海水族園のリニューアルに向けて、2024年5月20日をもって、これまで淡水生物を展示していた「水辺の自然」エリアが閉鎖となりました。現在は企画展「『水辺の自然』の生き物」として「東京の海」エリアの入り口で、閉鎖した「水辺の自然」エリアと同様に、自然が豊かだった頃の東京の水辺をイメージした水槽をご覧いただけます。一つ目の水槽ではゼニタナゴを展示しています。ゼニタナゴは生きた二枚貝に卵を産む繁殖生態をもっており、東京では生息環境の悪化や産卵床となる二枚貝の減少により、絶滅してしまいました。水族園では保全活動として繁殖を行っており、展示しているのはその一部になります。水草の間を泳ぐ、かつて東京にもいたゼニタナゴをぜひ観察してみてください。二つ目の水槽ではムカシツチガエルやミナミメダカ、デンジソウやミツガシワといった田んぼや湿地で見られる動植物を展示しています。都市化が進み田んぼでくらす生き物を都内で見る機会も減ってきました。そういった生き物だけでなく、植物も展示していますのでぜひご覧ください。三つ目の水槽ではアカハライモリを展示しており、今後は東京に生息する他の両生類を展示する予定です。生き物だけでなく水辺の景観も楽しんでいただける展示を目指していきますので、ぜひお立ち寄りください。

動物園の“かお” 井の頭自然文化園 マーラ



どこか不思議な見た目ですが、モルモットなどと同じテングネズミ科です。アルゼンチンの大草原に暮らし、長い耳と顔の横側についた大きな目は、いち早く敵に気づくために役立ちます。

撮影日: 2024年10月10日